

授業科目名	動物臨床検査学Ⅰ	科目コード	2501011		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学年	1年
担当教員	長岡 小百合				
	実務経験教員 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 実務経験内容 獣医師免許 県外にて、小動物臨床獣医師、動物園獣医師として勤務。				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年 ・ 特別講義 ・ その他		授業コマ数	31時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選択 ・ 選択必須		単位数	1単位	
使用テキスト1	書名	愛玩動物看護師の教科書 第4巻 臨床動物看護学			
	著者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
使用テキスト2	書名	動物看護実習テキスト			
	著者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社 エデュワードプレス			
参考図書	動物病院ナースのための臨床テクニク、犬と猫の臨床検査マスターブック VTの臨床検査ハンドブック、動物看護のための小動物内科学 動物病院検査技術ガイド				
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
<p><授業の目的・目標> 動物病院で行われる臨床検査のうち、動物看護師が行うことが多い検体検査について学ぶ。各検査の正しい手順や使用する器具の取り扱いを学び、検査によって得られた結果が正常か異常かを瞬時に判断し、獣医師に報告できるようになることを目標とする。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 身体一般検査から尿、糞便、血液、など、動物病院で行われる一般的な検体検査について、それぞれの検査の目的、手技、基準値について理論で理解し、実習につなげていく。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80~100点を優、70~79点を良、60~69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60~100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。 通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80~100点を優、70~79点を良、60~69点を可とする。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他> 動物臨床検査学Ⅱ、動物臨床検査学実習Ⅰ、Ⅱ</p>					

授業科目名		動物臨床検査学Ⅰ
回	授 業 内 容	備 考
1	臨床検査の基礎（臨床検査とは、検体検査と生体検査）	
2	問診・身体一般検査から臨床検査へ	
3	臨床検査の基礎（検査の基準値、感度・特異度、精度管理）	
4	臨床検査の基礎（検査結果の考え方）	
5	臨床検査の基礎（顕微鏡の使い方）	
6	検体の取り扱い	
7	血液検査（血液検査とは、全血球計算（CBC））	
8	血液検査（血液塗抹標本の作成・染色）	
9	血液検査（血液塗抹標本の観察）	
10	血液検査（血液化学スクリーニング検査）	
11	血液検査（血液化学スクリーニング検査）	
12	血液検査（血液凝固スクリーニング検査）	
13	血液検査（免疫学的検査）	
14	血液検査（血液ガス検査）	
15	前期まとめ	
16	尿検査（尿とは、尿検査とは）	
17	尿検査（尿検査の手順、検査項目）	
18	尿検査（性状検査、尿沈渣）	
19	糞便検査（糞便検査とは）	
20	糞便検査（糞便検査の種類と手順）	
21	糞便検査（糞便検査でわかること）	
22	骨髄検査（骨髄検査とは、骨髄検査の目的）	
23	骨髄検査（骨髄検査の手順、骨髄検査の利用）	
24	細胞診と病理組織学的検査（細胞診とは）	
25	細胞診と病理組織学的検査（病理組織学的検査とは）	
26	遺伝子検査（遺伝子検査とは）	
27	遺伝子検査（遺伝子検査の手順）	
28	遺伝子検査（遺伝子検査の利用）	
29	その他の臨床検査	
30	その他の臨床検査	
31	後期まとめ	